



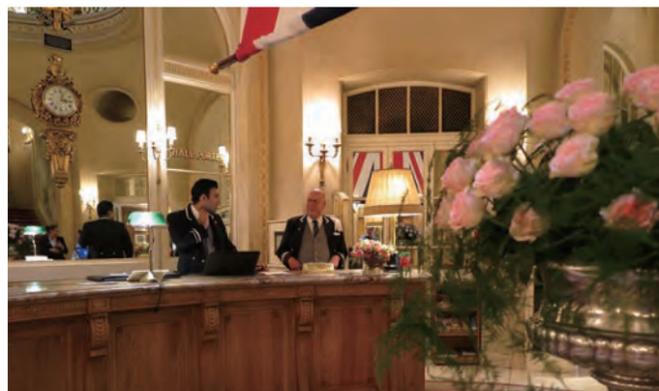
ロンドンで別格の伝統と格式を誇る名門ホテルがリッツロンドン「The Ritz London」である。“ホテル王”と呼ばれたセザールリッツの指揮の下、「Ritz Paris」と同じくシャルル・ミュースとアーサー・デイヴィスの建築により、ロンドン市内中心部、ピカデリー通り沿いのグリーンパーク脇に建てられ、1906年5月25日に開業した



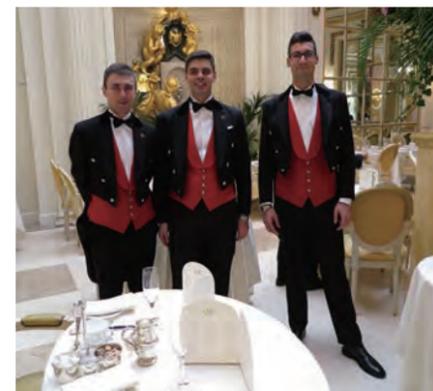
人気のラウンジ「The Palm Court」はアフタヌーンティーの予約客でいつも賑わっている



凛々しい姿のドアマンとベルキャプテン



威厳が感じられるコンシェルジュデスク



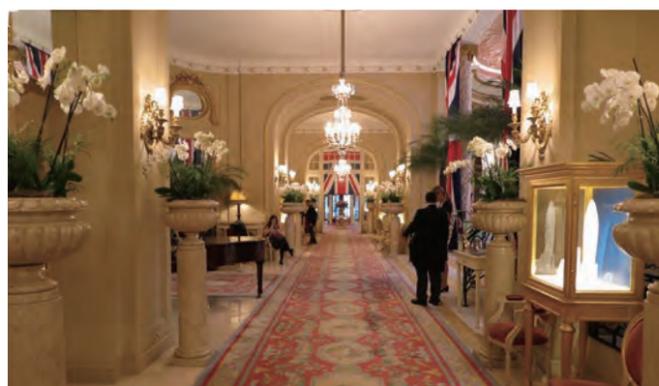
スタッフの多くは燕尾服でゲストに対応している



エントランスホールは上層に筒状に抜けており、ラウンジ状に空間が広がる



筆者 小原 康裕  
ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。  
[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)  
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



リッツロンドン館内の中央を貫く麗しきコリドー



エントランスホールの脇に設えた壮麗なステアケース



ホテル側面の外壁に、“ホテル王”と呼ばれたセザールリッツの歴史的プレートが掲げられている

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立ての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

### The Ritz London

ロンドンで別格の伝統と格式を誇る名門ホテルがリッツロンドン「The Ritz London」である。ホテル側面の外壁に1枚の歴史的プレートが掲げられている。“This hotel, inspired by Cesar Ritz, designed by Charles Mewes & Arthur Davis opened on 25th May 1906”。“ホテル王”と呼ばれたセザールリッツの指揮の下、8年前にリッツによって建てられた「Ritz Paris」と



メインダイニング「The Ritz Restaurant」は、開業後しばらくの間は伝説のエスコフィエが指揮を執っていたレストランで、2017 ミシュラン英国版で念願の1ツ星を獲得している



絢爛豪華な雰囲気に満ちた「The Ritz Restaurant」の店内



スタッフの多くが燕尾服で対応し、きびきびとした所作が気持ち良い



本式の作法を求めるのは無理があるが、茶室で使う正式の茶釜を用意し、ゲストの前で見事な点茶を披露している



“将軍家御用最上御濃茶”「初音」の抹茶サービス



館内には多くのボールルームを用意し、そのうちの1つ「The Queen Elizabeth Room」は息を呑む贅沢な空間である



「Deluxe Suite」内装は、所々に金箔があしらわれたルイ16世調のインテリアデザインを持つ



気品ある「Deluxe Suite」のベッドルーム



リノベーションが済んだばかりで、グリーンパークに面した気品あふれるスイートだ



ゴージャスな大理石とゴールドの水栓金具が美しいバスルーム

同じく、シャルル・ミュースとアーサー・デイヴィスの建築により、ロンドン市内中心部、ピカデリー通り沿いのグリーンパーク脇に建てられ、1906年5月25日に開業した。2002年11月、チャールズ皇太子の誕生パーティーがホテル内で開催され、エリザベス2世女王とエディンバラ公が臨席した。同年にはチャールズ皇太子よりロイヤル・ワラント（御用達指名）を受けている。

リッツロンドンは英国王室との関わりが密であるがゆえに、スタッフの多くは燕尾服でゲストに対応している。このような制服に対する気遣いは他のホテルではあまり見かけない。また、ホテル内のアンビアンスを保つため、ロンドン市内のホテルでは唯一ドレスコードがある。この規則は近年、厳格には守られてはいないが、レストランには午前11時以降、すなわち朝食時以外にはジャケットの着用が求められている。

リッツロンドンはスイートを含む全136室を擁し、外観は中世のネオクラシック様式であり、内装は所々に金箔があしらわれたルイ16世調のインテリアデザインを持つ。今回は「Deluxe Suite」を紹介したい。リノベーションが済んだばかりで、グリーンパークに面した気品あふれるスイートだ。メインダイニング「The Ritz Restaurant」は、開業当時は伝説のエスコフィエが指揮を執っていたレストランで、2017 ミシュラン英国版で念願の1ツ星を獲得した。人気のラウンジ「The Palm Court」はアフタヌーンティーの予約客でいつも賑わっている。館内には多くのボールルームを用意し、「The Queen Elizabeth Room」や「The William Kent Room」など息を呑む贅沢な雰囲気だ。その他、スパ・ビューティー施設「The Ritz Salon」やトレーニングジムなど充実している。

メインダイニング「The Ritz Restaurant」は華麗な、且つ広大な空間を有しているが、各テーブルの間隔が狭く、やや違和感を覚える。驚いた事は、朝食に“将軍家御用最上御濃茶”「初音」の抹茶サービスが有る事だ。もちろん、本式の作法を求めるのは無理があるが、茶室で使う正式の茶釜を用意し、ゲストの前で見事な点茶を披露している。